



Cadaver Surgical Training Center

CST センター

連絡先

TEL : 0853-20-2015

センター長

内尾 祐司 教授

専門分野：膝関節外科、スポーツ整形外科、手の外科
資格：
日本整形外科学会整形外科専門医
日本整形外科学会認定スポーツ医
日本整形外科学会認定リウマチ医
日本整形外科学会認定リハビリテーション医
日本手外科学会手外科専門医

献体によるご遺体を使用した手術手技等研修の企画に対する支援、
ご献体の準備と調整、研修実施等のサポートを行います。

業務内容

昨今、外科系手術は内視鏡・低侵襲手術が発達する一方で高難度となり、安全性を担保した、的確かつ正確な医療技術をもった次世代の外科医の養成が急務となっています。これまで、次世代の習練は専ら臨床実地で行われてきましたが、安全性の観点から、海外で行われているようなご遺体を用いた手術トレーニングの有用性が議論されてきました。2012年に日本外科学会と日本解剖学会は、合同で「臨床医学の教育及び研究における死体解剖のガイドライン」を公表し、それまで学生実習や解剖学研究に限定されていた献体使用が医師及び歯科医師の手術手技の研修等にも可能となりました。

CSTセンターでは、本ガイドラインを遵守しながら、ご遺体を用いて高度で安全な医療技術の普及のための外科教育や、難治性疾患に対する新たな治療法の開発を行います。

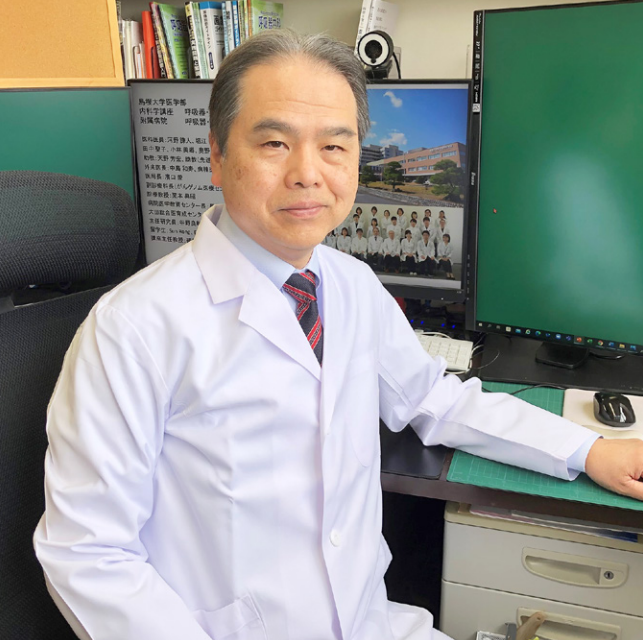
特徴

2019年4月1日、当センターが開設され、2020年1月11日、高度外傷センター主催で最初のCSTトレーニングが行われました。以来、眼科学講座主催による涙嚢鼻腔吻合術トレーニング、耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座主催による耳鼻咽喉科臨床解剖実習（経鼻内視鏡手術）、高度外傷センター主催のCTACS（Cadaver Training for Acute Care Surgery）コース、ASSET（Advanced Surgical Skills for Exposure in Trauma）コース、整形外科学教室主催のCadaverを用いた膝関節手術・肩関節鏡視下手術手技トレーニング、腎移植センター主催のCTRT（Cadaver Training for Renal Transplantation）コースなどが行われています。

このような取組を通して、手術手技向上、安全な手術の推進、並びに新たな手術手技の開発に向けた医療人養成に役立っています。



ASSETに向けてセッティングされた解剖準備室



センター HP

Advanced Medical Care Management Center

先進医療管理センター

連絡先

TEL : 0853-20-2180
E-mail: senshin@med.shimane-u.ac.jp

センター長

磯部 威 教授

専門分野：
呼吸器疾患全般、がん薬物療法
資格：
日本内科学会総合内科専門医・指導医
日本呼吸器学会呼吸器専門医・指導医
日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医・指導医

当院における先進医療の適格性、倫理的妥当性、安全性を管理します。

先進医療の実施状況の確認、改善、指導、教育、研修に係る業務を担います（下図参照）。

業務内容

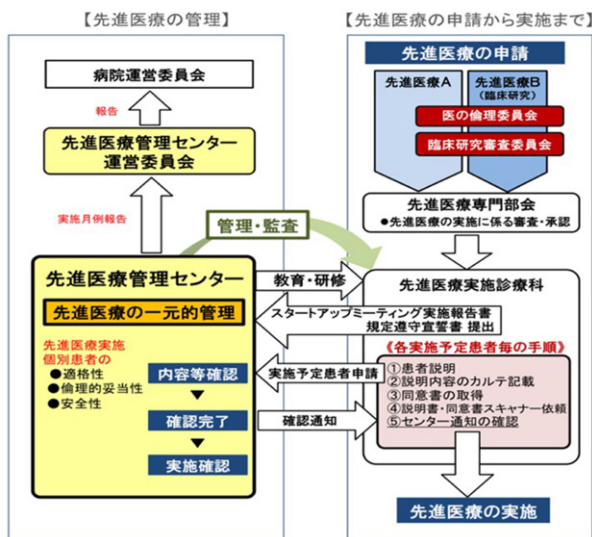
先進医療とは、公的医療保険の対象にはなっていないものの、将来的な保険導入のための評価を行うものとして厚生労働大臣が定める「高度の医療技術を用いた療養」に該当する、先進的な診断法や治療法です。先進医療は、有効性及び安全性を確保する観点から、医療技術ごとに一定の施設基準が設定されており、施設基準を満たす保険医療機関が届出することで、保険診療との併用が可能となります。十分に有効性及び安全性が確認されると、先進医療から公的医療保険の対象になる診療（保険診療）に切り替えられ、医療の進歩に大きく貢献することになります。

先進医療管理センターは、個別患者毎に「適格性、倫理的妥当性、及び安全性の評価」、「実施許可」、「モニタリング」を通じて、先進医療の適正な実施を目指します。

特徴

先進医療は、未承認、適応外の検査薬等を使用するが人体への影響が極めて少ない「先進医療 A」と、未承認・適応外の医薬品・医療機器の使用がなくても、実施環境や技術の効果等に、特に重点的な観察・評価を要すると判断される「先進医療 B」の二つに分けられます。いずれも先進性が高い技術ですので、実施に当たっては高度な医療技術をもつ医療スタッフ、チームが必要です。そのため、当センターでは適正な実施のために、①先進医療実施責任者と実施医師、関係医療スタッフによる開始前確認会議（スタートアップミーティング）、②先進医療実施責任者と実施医師による実施予定患者の適格性のダブルチェック、③個別患者毎の、先進医療管理センターへの事前実施申請・事後モニタリングを実施しています。また、適正な実施を目指し、病院職員に対して先進医療に関する研修会を開催しています。

先進医療管理センター運用フロー



先進医療管理センターの運用フロー

2022年4月～2023年3月実施分

技術番号	先進医療技術名称	実施件数
A-9	ウイルスに起因する難治性の眼感染症疾患に対する迅速診断 (PCR法)	14
A-10	細菌又は真菌に起因する難治性の眼感染症疾患に対する迅速診断 (PCR法)	0
A-11	多項目迅速ウイルスPCR法によるウイルス感染症の早期診断	2
A-16	細胞診検体を用いた遺伝子検査	0
B-20	S-1内服投与並びにバクリタキセル静脈内及び腹腔内投与の併用療法	0
合計		16

※技術番号は2023年3月31日現在

2022年度実施 先進医療報告 (計16件)



センター HP

Oral Care Center

口腔ケアセンター

連絡先

外来 TEL(歯科口腔外科外来) : 0853-20-2394

医局 TEL(歯科口腔外科医局) : 0853-20-2301

口腔ケアホットライン : 070-5045-0051

センター長

管野 貴浩 教授

専門分野：口腔顎顔面外科（顎口腔腫瘍の切除と再建、顎顔面外傷、顎変形症、歯科インプラント）

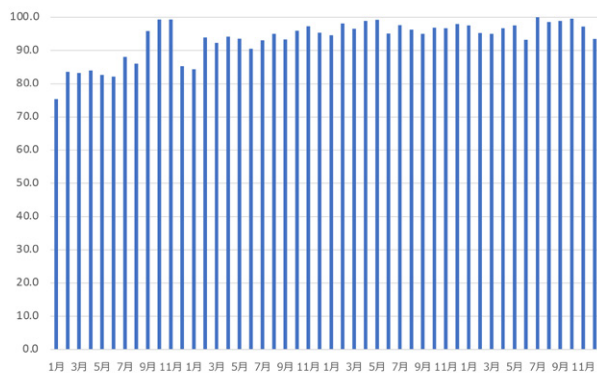
資格：博士（歯学）、（一社）日本口腔ケア学会 評議員、国際口腔顎顔面外科専門医（FIBCSOMS）、国際口腔顎顔面外科専門医認定機構 国際口腔がん、再建外科専門医（FIBCSOMS-ONC / RECON）、AOCMF International Faculty、（公社）日本口腔外科学会口腔外科指導医・専門医、（公社）日本顎顔面インプラント学会 指導医・専門医、日本がん治療認定医（歯科口腔外科）指導責任者、（NPO法人）日本口腔科学会 指導医・認定医

医療安全の観点から、口腔機能管理業務に特化した診療支援施設として、2019年から運用を開始しました。集中治療管理中や手術前後の口腔ケア、がん治療中の口腔有害事象の管理、摂食・嚥下領域など幅広くサポートを行います。

業務内容

「周術期」とは、手術とその前後（入院から回復まで）の時期を指す言葉です。当院では、2019年11月に「周術期管理チーム」を設置し、医師だけでなく、看護・薬剤管理・リハビリテーションなどの専門家が連携して、術後の合併症の防止に取り組み、周術期の口腔機能管理は、歯科口腔外科の歯科医師、歯科衛生士が行って来ましたが、口は常に外界と接しているため、体内でも細菌が多いところです。患者さんが、口内を清潔にしないまま手術に臨んだ場合、口内の細菌が原因で肺炎などの合併症を引き起こされるリスクが高まります。一方、口腔ケアを行った場合には、胃がんや食道がん手術後の肺炎リスクが低下し、術後30日以内の死亡が減少するなどの効果が報告されています。

手術件数の増加により、歯科衛生士を増員するとともに、全身麻酔を受けるすべての患者さんの口腔ケアを行う診療支援施設として「口腔ケアセンター」を設置することとし、本格的に運用を開始しました。術後の手術合併症のさらなる低減を目指します。



全身麻酔患者における口腔ケアセンター受診率（月別）

<周術期管理チーム>

周術期医療の安全のために、長時間手術や基礎疾患のリスク管理を行う、多職種の連携を目的とした周術期管理チームの一員として連携を行います。

<緩和ケア病棟との連携>

がん終末期患者は全身状態の悪化にセルフケア困難な状況が加わり、口腔トラブルを生じやすくなります。すべての入棟する患者さんに介入を行います。

<摂食・嚥下サポートチーム>

脳血管障害や頭頸部癌術後の、特に経口摂取が困難な患者さんのためのチームの一員としてサポートを行います。特に口腔内装置の作成など専門的な処置が可能です。

<栄養管理サポートチーム>

多職種による患者さんへの適切な栄養管理を行うチームの一員としてサポートを行います。主に義歯の管理や口腔衛生処置を支援します。

<高度脳卒中センター>

急性期の脳血管障害を対象としたセンターのサポートを行っています。



処置前の歯垢・歯石で汚れた口腔内



口腔ケア（歯石除去や尖った歯の研磨等）を終えた口腔内

口腔ケア前後の口腔内写真



部 HP

Orthoptics Unit

視能訓練部

連絡先

外来 TEL : 0853-20-2391
病棟 TEL : 0853-20-2497
医局 TEL : 0853-20-2284 FAX : 0853-20-2278

部長

谷戸 正樹 教授

専門分野：
小児眼科、弱視斜視、屈折異常、ロービジョン、緑内障
資格：
日本眼科学会眼科専門医・指導医



12名の視能訓練士が所属しています。視能訓練士とは、医師の指示のもと、小児の斜視や弱視の検査・訓練や視力検査などの眼科一般検査を専門に行います。医師の診断・治療のために必要となる正確な検査データを提供します。

業務内容

1. 眼科一般検査

主に屈折・視力・眼圧・視野検査や画像診断検査など、医師の診断や経過観察に必要な検査を行います。また、術後や眼鏡が合わないなどの様々なニーズに応じて、眼鏡も処方します。

2. 視能矯正

小児では、遠視などの屈折異常や斜視などが原因で弱視が引き起こされ、早期発見・治療が大切になります。屈折・視力検査をはじめ、斜視検査や立体視などの両眼視機能検査によって弱視の原因を調べます。必要に応じて眼鏡処方や健眼遮蔽法などを行い、弱視眼の視覚の発達を促します。

成人の斜視で複視が生じている場合は、対症療法としてプリズムレンズの処方をします。プリズムレンズは光学的に斜視を矯正し、複視を改善させます。

3. ロービジョンケア

ロービジョン外来では、視力・視野障害など視機能が低下した方に対し、情報提供や視覚・生活補助具などロービジョングッズの紹介・選定を医師と共に行います。日常生活の様子や困りごとを聴取し、ニーズに応じてロービジョングッズを試していただいたり、専門機関へ繋げたりします。



拡大読書器、遮光レンズなどのロービジョングッズ

特徴

弱視訓練では従来の健眼遮蔽法に加え、タブレット型弱視訓練器のオクルパッドを用いた訓練も行っています。オクルパッドは両眼開放で訓練が行えるため、片眼遮蔽による遮蔽弱視などの副作用のリスクが抑えられます。また、ゲーム要素が取り入れられており、小児でも飽きさせることなく訓練に取り組みます。

ロービジョン外来では医師と視能訓練士に加え、定期的なライトハウスライブラリー、臨床心理士、JRPS（山陰網膜色素変性症協会）の方々に同席していただいています。それぞれの立場から情報提供やアドバイスをすることで、より質の高いロービジョンケアが行えるよう力を入れています。

眼科外来ではマイクロペリメータ（MP-3）を導入しています。MP-3は、眼底像を観察しながら網膜に刺激光を投影し、網膜局所の感度を測定することができます。網膜の黄斑部が障害されると中心暗点が生じ、正面では見ようとする部分が見えない、あるいは見えにくくなるため視力も著しく低下します。MP-3は、そのような症例に対して網膜局所の感度を測定し、黄斑部以外の感度の良い網膜部位で見る“偏心視”を獲得させるための訓練を行うこともできます。



各種検査器機



Children and AYA Support Center

子どもとAYA 世代サポートセンター

連絡先

PHS : 070-6692-2022

センター長

安田 謙二 講師

専門分野：
小児循環器疾患、成人先天性心疾患
資格：
日本小児科学会認定小児科専門医
日本小児循環器学会認定小児循環器専門医
日本成人先天性心疾患学会認定成人先天性心疾患専門医

～島根大学医学部附属病院にかかわる全ての子どもと AYA 世代をサポートします～
子どもと AYA 世代が抱える療養や生活にまつわる諸問題を、共に考え、解決を目指します。

センター PR

AYA 世代とは思春期から若年成人を意味し、概ね 15 歳から 30 歳代の年代のことを指します。この世代の患者さんは、病院の中では圧倒的に少数派ですが、ライフイベントの多い年代のため、病状だけでなく教育、就労、子育てなど抱える問題は多岐にわたります。

当センターのスタッフは小児科医、内科医、看護師、ソーシャルワーカー、心理士、チャイルドライフスペシャリスト、保育士などで構成されています。病棟・外来スタッフや緩和ケアセンター、看護専門外来、外傷センター、集中治療室など院内関連部署と連携し、当院にかかわる子どもと AYA 世代の療養や生活にまつわる諸問題の解決に向けて一緒に考えます。病気の親御さんをもつ子どもには、病気の理解やグリーフケア、精神的負担の軽減等の支援も行います。

活動内容

がんの親を持つ子どもたちのグループワーク (CLIMB®) を定期的に開催しています。このプログラムは、親の病気に関連するストレスに対処する子どもの能力を高めることを目指し、当院では春休み、夏休みを中心に年 2 回開催しています。また移行期医療推進の一環として、先天性心疾患を持つ子どもとその親を対象とした自立 (自律) 支援を目的としたワークショップも開始しました。

相談窓口は当センタースタッフ、病棟・外来スタッフなど、皆さんのすぐそばにいます。些細なことでもお気軽にご相談下さい。



子どもと AYA 世代サポートセンターのイメージ図
(当センターパンフレットより)



事例検討会の様子

子どもと AYA 世代サポートセンター



Emergency and Critical Care Operations Center (ECCOC)

救急・集中治療調整管理センター

センター長

渡部 広明 教授

専門分野：Acute Care Surgery、外傷学、外傷外科学、救急集中治療医学、外科学、災害医学、病院前診療学
 資格：日本救急医学会救急科専門医・指導医、日本外科学会外科専門医・指導医、日本外傷学会外傷専門医、日本消化器外科学会消化器外科専門医・指導医、社会医学系専門医・指導医、日本Acute Care Surgery学会認定外科医、日本腹部救急医学会教育医、日本腹部救急医学会腹部救急認定医

1. 救急および重症管理を行う部門を統括し、部門間の調整を実施
2. 円滑な救急医療と集中治療を提供できる体制の整備
3. 効率的な救急・集中治療管理を目指した院内体制の整備

業務内容

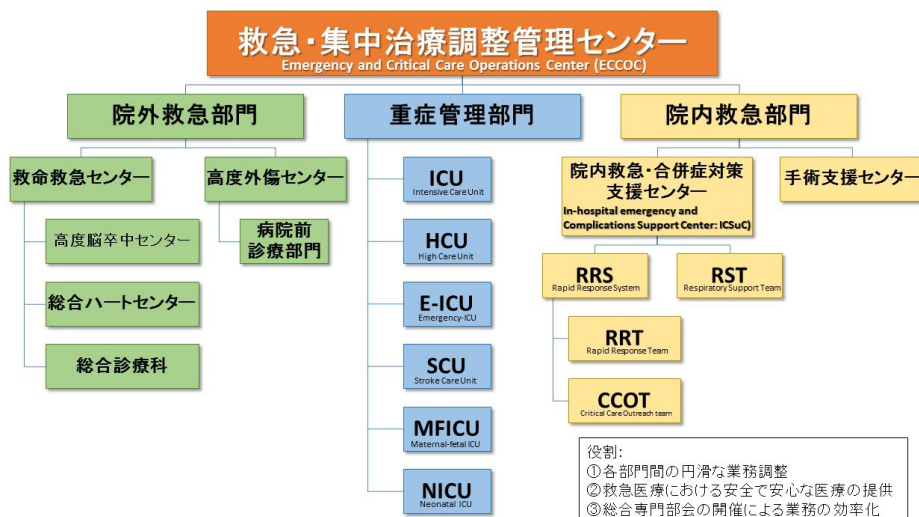
「救急・集中治療調整管理センター」(Emergency and Critical Care Operations Center: ECCOC[通称イーコック])は、各救急関連診療部門間の連携調整を図ることで、適切な救急診療を達成するための組織です。ECCOCの役割は、①各専門的救急部門間の円滑な業務の調整、②救急医療における安全で安心な医療の提供、③総合専門部会の開催による業務の効率化促進です。

ECCOCは、多様化する救急医療と集中治療に対して、各専門的救急部門が高度に連携してスムーズでシームレスな医療を提供することを目指した組織です。

特徴

ECCOCは大きく3つの部門から構成されます。救命救急センター、高度外傷センター、高度脳卒中センター、総合ハートセンター、総合診療科の5部門から成る「院外救急部門」、ICU(集中治療部)、HCU(ハイケアユニット管理部)、E-ICU(救命救急センター病棟)、SCU(ストロークケアユニット)、MFICU(母体胎児集中治療室)、NICU(新生児集中治療室)の6つから成る「重症管理部門」、そして院内救急・合併症対策支援センター(ICSuC)と手術支援センターの2部門から成る「院内救急部門」の3つで構成されます。

これら3部門を統括して各組織の横の連携を調整管理する役割を担うのが、ECCOCの重要ミッションとなります。ECCOCを核として院内の救急・集中治療に関わる部門を統括することで、より迅速でシームレスで安全な救急医療の提供を目指しています。



組織図

役割:
 ①各部門間の円滑な業務調整
 ②救急医療における安全で安心な医療の提供
 ③総合専門部会の開催による業務の効率化

救急・集中治療調整管理センター



センター HP

Center for Medical Care Support

医療的ケア児支援センター

連絡先

PHS : 070-1263-2225
E-mail : Shimane-Childs_Support@med.shimane-u.ac.jp

センター長

安田 謙二 准教授

専門分野：
小児循環器疾患、成人先天性心疾患
資格：
日本小児科学会認定小児科専門医
日本小児循環器学会認定小児循環器専門医
日本成人先天性心疾患学会認定成人先天性心疾患専門医

～島根県の医療的ケア児とそのご家族の暮らしが笑顔でいっぱいになるように～
医療的ケア児、ご家族・支援者が適切な支援を受けることができる様、
多職種、関係機関と連携して活動しています。

センター PR

医療的ケア児とは、医学の進歩を背景として新生児特定集中治療室等に長期入院した後、引き続き人工呼吸器による呼吸管理、喀痰吸引、経管栄養などの医療的ケアが日常的に必要な児童のことで、在宅の医療的ケア児数は全国に約2万人、島根県に約100人と推計されています。2021年9月に「医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律」が施行され、医療的ケア児やそのご家族・支援者（医療的ケア児等）の支援体制整備が進められています。医療的ケア児等に対する相談支援、関係機関の連携調整、情報提供、人材育成等を担う目的で、2022年11月当院内に「島根県医療的ケア児支援センター」が開設されました。



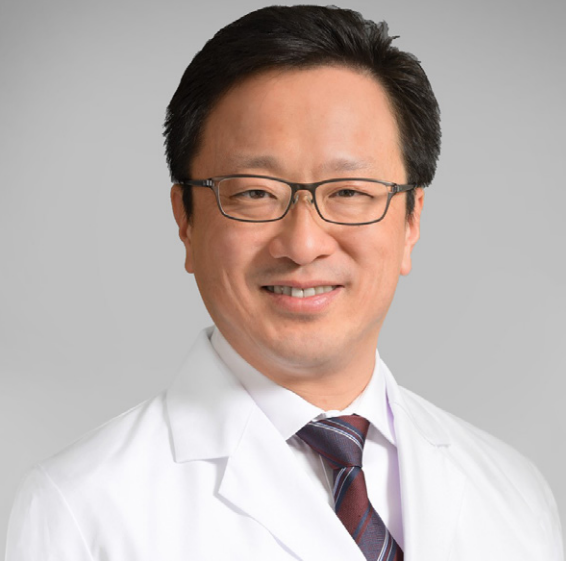
島根県医療的ケア児支援センター

どんぐり

当センターの愛称は「どんぐり」です。どんぐりはその小さな硬い実から芽を出し、大きなブナの木に育ちます。大木に生った実は地面に落ち、コロコロと軽やかに転がり、リスなどの動物たちの餌となりその成長を支えます。当センターのイメージにぴったりです。このロゴは島根大学総合理工学部建築デザイン学科久保早智さんが作ってくれました。

活動内容

- 医療的ケア児等の相談支援
専任の医療的ケア児等コーディネーターが常駐し、直接来所、電話、メール等で医療的ケア児等からの相談を受け、問題解決に向け助言、情報提供を行います。
- 関係機関との連絡調整
事例に応じて医療、保健、障害福祉、教育／保育、行政等関係機関と連携し、支援体制を整備します。
- 関係機関等への情報提供及び研修
支援者の技術向上を目指した研修会、事例検討会、医療的ケア児等コーディネーター／支援者養成研修を開催し、医療的ケア児等支援者の人材育成を行います。また HP 等を活用し最新の情報を発信します。
- その他
災害支援体制、成人期に到達した医療的ケア児等の医療体制の構築等を行います。
島根県の医療的ケア児等の暮らしが笑顔でいっぱいになる様に日々活動しています。些細なことでも構いません。当センターにお気軽にご相談下さい。



Support Center for Technical Areas of Treatment

診療支援技術部門サポートセンター

センター長

金崎 啓造 教授

専門分野：
糖尿病、糖尿病性腎症
資格：
日本糖尿病学会糖尿病専門医
日本内科学会総合内科専門医

各部門等の連携強化、意欲・資質向上等のために必要な支援を行います。

業務内容

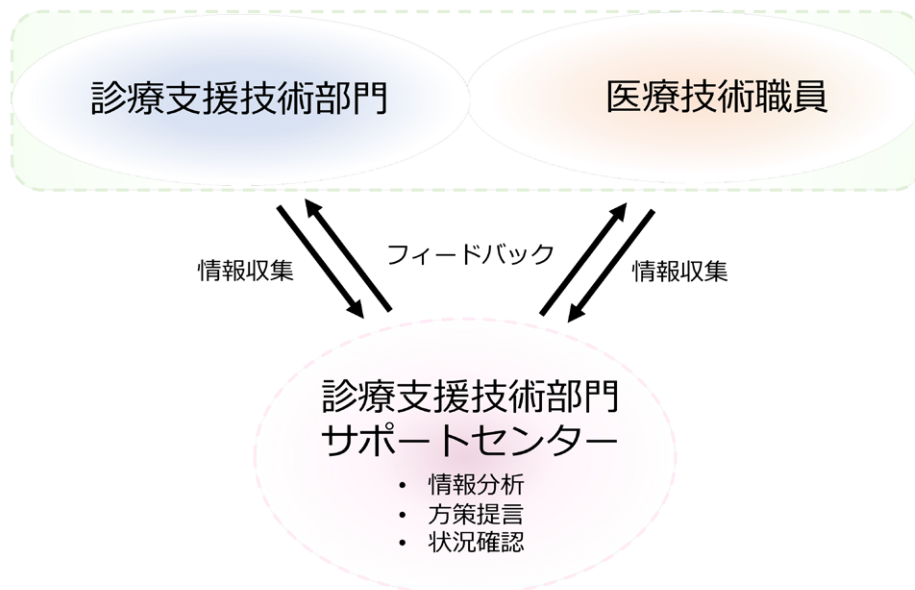
医療技術職員の抱える諸問題の現状を把握し必要に応じて改善策の検討を行い、各部門等の連携強化、意欲・資質向上等のために必要な支援を「病院組織として」以下の業務を行います。

- 諸問題の現状把握及び改善策の検討に関すること。
- 各部門等の連携強化に関すること。
- 意欲・資質向上のために必要な業務及び支援に関すること。
- 医療技術職員の支援に関すること。

特徴

「地域医療と先進医療が調和する大学病院」を実現するためには、全ての病院教職員の総合力を発揮することが必須です。個々のスキルアップ、職員の補充、最先端知識・技術・機器の導入といったソフト面・ハード面での充実はもちろん必要ですが、病院職員が当事者意識を持ちつつ前向きに発展できる環境づくりが何よりも重要となります。

病院職員はベクトルの異なる個人の集合体です。しかし、それぞれ大切な個人として個性を尊重されたいのは共通する欲求のほうです。当センターでは多くの側面から満足度の高い職場環境を整え、また医療人として活躍できる場を整えます。



センター関係図